

シーリングニュース



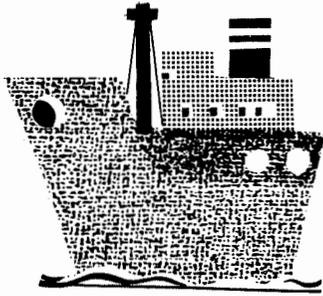
季刊
NO.10

目次

- シーリング材の価格動向…………… 2～4
- 1級シーリング管理士の誕生…………… 5・9
- シーリング技術管理士
- シーリング材を用いた防水の寿命は
どうすれば長くなるか(座談会)…………… 6～8
- 業界動向、価格動向と建築需要……………10・11
- 本部・支部の動き……………12
- 短歌・俳句・随想……………13
- 刊行物のご案内・工業会の概要……………14・15

シリーズ④

シーリング材をめぐる その後の石油事情



シーリング材 の価格動向

調査委員会

1. 伸びつづけるシーリング材需要

昭和54年度のシーリング材の販売推定量は、昭和53年度の対前年伸び率に比べ、ややその成長率に鈍化がみられるものの、依然としてかなり高度の伸び率を維持している。内容的には、ポリウレタン系、シリコン系、ポリサルファイド系など、弾性シーリング材の伸びが大きく、油性系の減少傾向は、昭和53年度におけるそれよりも大となっている。この傾向は、ここ2、3年来の傾向であるが、特にポリウレタン系、シリコン系の大幅な伸びは、建築用シーリング材における弾性シーリング材指向が、ますます顕在化してきたものといえよう。

2. 原油高騰と諸原材料の値上げ

こうした状況下で、価格面の動向をみると、53年12月の原油価格引き上げに端を発した諸原材料の値上りは、まことに急であり、加えて54年6月の原油価格の再引き上げにともない、波状攻撃となって押し寄せ、重大なコスト圧迫要因となった。このため、各シーリング材メーカーとも、依然として激しい競争下でありつつも、製品価格の改訂に踏み切らざるを得ぬ状況に追い込まれた。各シーリング材別の主要原材料価格の推移は、表のとおりで、各シーリング材とも、ここ2、3年の平均的推移とは、様変わりの様相を呈している。

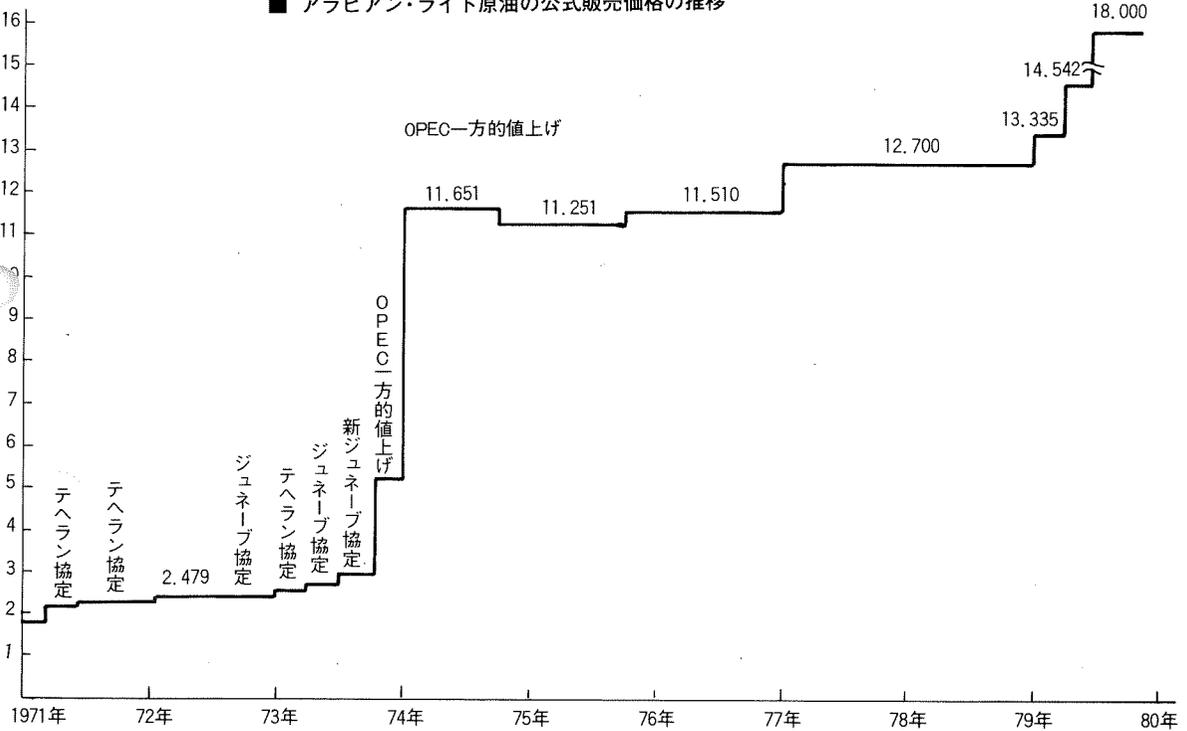
3. 最近の価格動向

シーリング材のコスト圧迫要因の増大は、前述の通りであるが、これに加うるに、シーリング材をとりまく関係経済指標も図に示すように、明確なインフレ傾向を示しており、シーリング材メーカー、施工業者とも、極めて厳しい状況下に追い込まれているといえる。

一方、建築用シーリング材の販売価格（施工店渡し価格）は、15%～20%の値上りを示している。これにより、シーリング施工価格も、ほぼ同様の値上りとなっている。しかしながら、この値上りも周囲の圧迫要因の一部を

ドル/バレル

■ アラビアン・ライト原油の公式販売価格の推移



資料：内外石油資料（石油連盟）

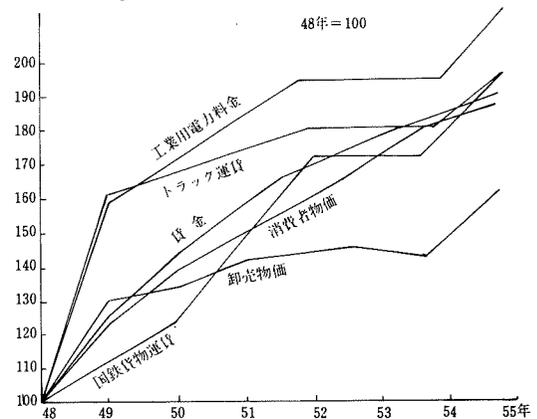
注：1975年9月末までの価格は公示価格

シーリング材の年別主要原料価格表

48年度=100

基材名		年度別	48年	51年	54年
シリコン系	金属ケイ素		100	180	262
	メチルクロライド		100	180	253
変成シリコン系	MSポリマー		100	100	110
ポリサルファイド系	チオコールLP		100	195	219
ポリウレタン系	ウレタンプレポリマー		100	134	206
	ポリオール		100	122	147
アクリル系	アクリルモノマー		100	210	235
ブチルゴム系	イソプレン、イソブレン共重合体		100	145	180
SBR系	SBRラテックス		100	135	152
油性	アルキッド樹脂		100	176	199

消化したにすぎず、今後の環境の変化次第では、さらに揺れ動くことも予想される。



関連経済指標

4. 今後の展望

前記のように、シーリング材をめぐる価格環境は、極めて厳しいものがある、また昭和54年7月には、懸案のJIS A 5758 が公布され、昭和55年は、シーリング材各メーカーにとっては、新JISへの対応の年となるわけである。さらに昭和55年秋には、新JASSの公布も予定されており、各シーリング材メーカーおよび各施工店とも、より一層の性能改善と技術向上のための努力を迫

られている。これらの技術革新にともなう諸経費の増大また避けられぬ状態である。

建築におけるシーリングに課せられた使命を全うし、より一層の向上を目指していくためには、業界自身の不漸の切磋琢磨と、改善勢力がまず第一に求められるのはいうまでもないが、これらの試練を円滑かつ確実に克服するためには、材工価格の改善が急務といえよう。需要家各位の深いご理解とご支援を切望してやまない次第である。

建築用シーリング材参考標準設計価格 (S.55年4月現在)

区 分	積算基準	目地寸法 (幅×深さ)	材料価格	労務費	副資材	経 費	計
シリコン系 1成分形	8,200/ℓ	5mm×5mm	205円	330円	120円	160円	815円
		10mm×10mm	820	380	170	330	1,700
		15mm×10mm	1,230	440	190	440	2,300
		20mm×10mm	1,640	500	240	570	2,950
シリコン系 2成分形	6,800/ℓ	5mm×5mm	170	330	120	150	770
		10mm×10mm	680	400	150	290	1,520
		15mm×10mm	1,020	440	190	390	2,040
		20mm×10mm	1,360	500	240	500	2,600
変成 シリコン系	6,600/ℓ	5mm×5mm	165	330	120	150	765
		10mm×10mm	660	400	150	290	1,500
		15mm×10mm	990	440	190	390	2,010
		20mm×10mm	1,320	500	240	490	2,550
ポリサルファイド系	6,600/ℓ	6mm×6mm	238	330	120	160	850
		10mm×10mm	660	380	150	280	1,470
		15mm×10mm	990	440	190	390	2,010
		20mm×10mm	1,320	500	240	490	2,550
ポリウレタン系 1成分形	4,400/ℓ	10mm×10mm	440	390	150	230	1,210
		15mm×10mm	660	440	190	310	1,600
		20mm×10mm	880	500	250	390	2,020
ポリウレタン系 2成分形	3,700/ℓ	10mm×10mm	370	390	150	220	1,130
		15mm×10mm	555	440	190	280	1,470
		20mm×10mm	740	500	250	350	1,840
アクリル系	1,800/ℓ	10mm×10mm	180	330	150	160	820
		15mm×10mm	270	390	190	200	1,050
		20mm×10mm	360	440	230	250	1,280
S B R 系	1,500/ℓ	10mm×10mm	150	330	150	150	780
		15mm×10mm	225	390	190	190	1,000
		20mm×10mm	300	440	230	230	1,200
プチルゴム系	1,700/ℓ	10mm×10mm	170	330	150	150	880
		15mm×10mm	255	390	190	200	1,035
油 性	1,200/ℓ	10mm×10mm	120	120	30	60	330
		15mm×10mm	180	130	40	80	430
		20mm×10mm	240	150	50	100	540
		30mm×10mm	360	180	60	140	740



第3回シーリング管理士誕生!

第1回シーリング技術管理士(仮称)誕生!

去る2月2日(土)から5日(火)までの4日間、生産性研修会館(静岡県・函南町)において、1級シーリング管理士養成講習会及び試験を開催した。受講者は60名、受験者は63名(前回受講者3名を含む)が参加し、最終日の2月5日(火)の試験を経て38名が合格し、1級シーリング管理士32が誕生した。

第3回1級シーリング管理士養成講習会と合同で工業会々員会社々員を対象とした第1回シーリング技術管理士(仮称)養成講習及び試験を開催した。受講者は51名、受験者は48名が参加し、第1回シーリング管理士(仮称)27名が誕生した。

☒ 前に発表しておりました名称(シーリング技術士)は、技術士法により名称の使用が制限されておりますので、シーリング技術管理士(仮称)として発表いたします。正式名称は近々決定することになっております。



1級シーリング管理士合格者上位5名

- ①秋山 哲 大阪アルファ産業(株)
- ②佐々木淳 (株)サンゼオン防水工業所
- ③小野田慎治 (株)マルエス工業
- ④橋原征雄 (株)ムトウ
- ⑤諏訪憲雄 (有)野田工業所

シーリング技術管理士(仮称)合格者上位5名

- ①椎名健介 トーレ・シリコーン(株)
- ②市橋弘雄 トーレ・シリコーン(株)
- ③芥川慎一 (株)エービーシー商会
- ④田沼英己 セメダイン(株)
- ⑤篠田正己 (株)日興社

シーリング材を用いた 防水の寿命は どうすれば長くなるか？

出席者

金子 讓 日本シーリング工業会広報委員長、副会長
山内雅夫 " 副広報委員長
平野英作 " 技術委員長
西沢順之助 " 副技術委員長
河野純一 信越化学工業(株)
笠井慎年 トーレ・シリコーン(株)
徳田精久 アサヒボンド工業(株)

座談会のまとめ

去る2月2日から5日までの4日間、1級シーリング管理士養成講習会が開催されたが、期間中の2月3日に受講者全員とメーカーの聴講者、それに講師が参加し5つのグループに分れ、上記テーマで討論会を行なった。その内容を各グループの代表者と広報委員会とでまとめる座談会を3月13日に開催し、ここにその報告をする。

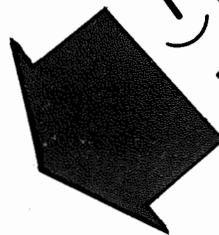
シーリング材の 寿命によるもの

- ①シーリング材の寿命・使い方との関連の明確化
- ②動曝露試験機による耐用年数の判定
(日本シーリング工業会・研究機関による)



材
料

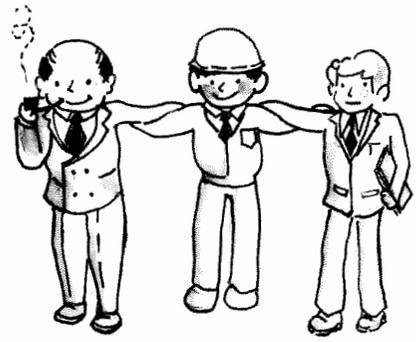
●理想的な材料の開発
●プライマーの開発・単純化
JIS A5758の実施



日本シーリング工業会

設計 (G・C)

適所 適正な目地設計
 適価格 工期・工程の適正化



JASSの活用

雑工事からの脱却

JASSへの参加
 共通仕様書の作成

スによるもの

シーリング部位以外
 からの
 漏水
 (タイル目地・メタルタッチ)

管理士のレベルアップ

- 適正施工の実施 (JASSによる)
- アウトサイダー対策
- 作業条件の改善

(味業)H 施

管理士教育の徹底
 アウトサイダー対策

日本シーリング工事業団体
 連合会



シーリング材を用いた 防水の寿命を どうすれば長くなるか



まず、シーリング材はその材料のもつ水密・気密性能をもって防水性能の維持に関与・貢献するものであり、厳密に言えば、ウォータープルーフではなくウォータータイトなものであるという認識に立つことが必要であろう。

そこで、上記テーマに関して、シーリング材の寿命をどうとらえるかが問題であり、その漏水クレームを整理すると次のようなことになる。

- ①材料的寿命による漏水が防水寿命をきたすことになる。
- ②シーリング材そのものの性能とは別に、ミスによる漏水事故が関係してくる。

①については、メーカーサイドの問題であるが、現在研究開発が進んでいる動曝露試験機によるシーリング基材の耐用年数の判定、明確化が急がれるところであろう。

②については、前頁の図解のように整理してみたが、設計、材料（プライマー等）、施工のそれぞれによるミスが漏水事故につながっているといえるようだ。

例えば、設計では全体として、正しい材料の使い分けやシーリング材の持ち味を生かした施工、いわば適材適所なる標記がなされていないことであろう。被着体における目地幅が不足しているとかが上げられるが、また工期・工程の不適正なことで、突貫工事を強いられて十分な工事がなされていない状況があったり、寒冷地における施工要領が納得のいかないものであったりする。最適な工事条件を適用するという意味でも、大いにJASSの活用・徹底を実施し、雑工事からの脱却を早急にはからなければならぬわけである。

材料に関しては、シーリング材そのものの問題もあるわけであるが、プライマーの種類、塗り分けが不要な単

純化されたプライマーもと要望する声もある。また、シーリング材にしても種類が多すぎると、取扱い方のシンプルな材料かつ、プライマー不要の自着性のあるシーリング材を開発してほしいという声もある。こういったことから、材料そのものによる漏水事故のケースがあるわけで、メーカーはJISA 5758にのっとって、材料の有効期間の明確化を計らなければならないと思う。

実際の施工現場では、最近タイル、石目地、サッシ等の洗いにシリコンを塗る事もあり、これがクレームの原因ともなるケースがある。一方、いまだ現場の作業条件の改善がなされておらず、強行な工事をさせられたり、寒冷地など冬場の施工要領が確立されてないことが多いのが目立つ。施工者サイドでも、より一層のシーリング管理士教育のレベルアップをはかるよう徹底しなければならないし、またアウトサイダーに対しても、業界一体となつての対応をしていかなければならない問題点がある。

日本シーリング工業会としてもこれら諸問題に対し、それなりの対応策を講じなければならない。

まず、現実のこれら諸問題の対処法の普及・徹底をさせるために、より技術情報の交流を盛んにし、新たなシーリング材の認識向上を目指して、ゼネコン・設計事務所などの各関連業界方面へPR誌等を活用し、広範に流布しなければならない。

最近、とみに話題になっている保証と耐用年数の問題だが、日本シーリング工業会でも動曝露試験機の開発で、耐用年数の明確な判定を下し、一つのメンテナンス基準設定を下すことも必要であろう。

また、適正価格に関連した問題も看過できない点があり、適正な利潤とモラルに基いて材料単価のアップ設定が望まれている。これには、日本シーリング工事業団体連合会との材工一体となつた運営が必要となつてこよう。

1級シーリング管理士 合格者名簿

(32名)

■北海道支部

小山 毅芳 (有)ヤマト工業

■仙台支部

浜砂 喜重 (有)丸本工業所

本吉 和康

■東京支部

神尾 健 木元工業(株)

戸田 裕 東邦防水総業(株)

広瀬 忠夫

室井 幸雄 理建工業(株)

■名古屋支部

新保喜美雄 シンコー工業(株)

阿野田卓男 中央建材工業(株)

栗原 真 (株)栗原

山口 孝志 名古屋日本化成(株)

■大阪支部

秋山 哲 大阪アルファ産業(株)

安東 延治 (株)大協建材

岡田 誠治 日本化成工業(株)

岡田 良平

小森 勝

庄川 和貴 阿南工業(株)

高木 修 神戸建設(株)

中田 安信 大阪工業(株)

長江 誠一 (株)東光商会

西山 義雄 (株)特殊技研

松本 文雄 昌光産業(株)

山下 雄治 日本化成工業(株)

横道 哲幸 (株)東洋防水

■広島支部

小野田慎治 (株)マルエス工業

佐々木 淳 (株)サンゼオン防水工業所

世羅 敏則 (株)ツキタエ工業

原 俊之 (株)マルエス工業

■福岡支部

諏訪 憲雄 (有)野田工業所

檜原 征雄 (株)ムトウ

宮本 宣博 宮本産業(株)

龍 健一 ティパ化工九州販売(株)

シーリング技術管理士 合格者名簿

(仮称)

(27名)

徳田 精久 アサヒボンド工業(株)

芥川 慎一 (株)エービーシー商会

河端 次彦 コニシ(株)

谷口 雅俊

木曾 英隆 サンスター化学工業(株)

青山 勝 信越化学工業(株)

河野 純一

小林 勲

坂詰 功晃

増田 透

鏈水 寿博

大塚 浩央 ソニーケミカル(株)

小形 考一 セメダイン(株)

田沼 英己

八代 秀雄

斉藤 修 東芝シリコーン(株)

渡辺 修二

市橋 弘雄 トーレ・シリコーン(株)

笠井 慎年

岸原 淳

沢村 直文

椎名 健介

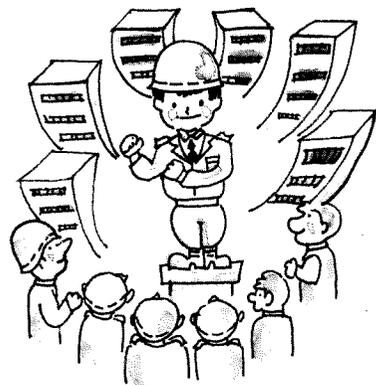
篠田 正己 (株)日興社

松村 博

梅野 雅孝 山内ゴム工業(株)

鈴木 典夫

山田 博



建材の価格動向は 建築需要に どう響くか

政府・日銀は公定歩合の引上げを決定し、電気・ガス料金の大幅値上げを承認した。また、昨年から“さみだれ”に値上りしている原油の輸入価格は、あらゆる生産資材の生産コストの上昇を招いている。さらに、原油とは無関係の筈の木材（原木）の輸入価格も資源ナショナリズムの影響から、大幅な値上りを示し、木材の販売価格の暴騰となった。木材価格は昨年秋には一時安定したかに見えたが、今年に入り再び値上り傾向となり、とどまるところがない。

建築材料業界を取りまく経済環境は悪化の一途をたどっている状況である。建築材料の生産コストの上昇は、当然、販売価格に転嫁せざるを得ないが、建築材料の価格アップは建築コストの上昇となる。建築コストの上昇は建築需要になんらかの影響を及ぼすものと考えられよう。

物の価格と需要の関係は、経済の原則からいうと、供給価格の上昇は需要を減少させ、価格の低下は需要を増加させることになっているので、この経済の原則から判断すると「建築材料の価格上昇は建築需要を減少させる」ことになろう。しかし、過去の建材価格の上昇と建築需要の動向をみると「建材価格が上昇すると建築需要が増加し、価格上昇がストップするか価格が低下しはじめると建築需要が減退する」という経済の原則に反するような“経験則”もある。

さて、これからの建築材料の価格動向はどう変化するか、また、その建築材料の価格の変化によって建築需要は吉（増加）と出るか凶（減少）と出るか、最も気になるところである。

■コスト高で価格上昇

中高層建築物の原材料は、鋼材とコンクリートであり、建築部品としてはアルミサッシ、アルミカーテンウオー

ル、間仕切部材などであり、仕上材料としては張りもの（タイルなど）と塗りもの（吹付材、塗装材）などである。

鋼材の価格は、この春から、新日鉄をはじめ大手高炉メーカーは10%以上の値上げを打ち出しており、セメントおよび生コンメーカーは20%余の値上げをめぐる、出荷拒否さわぎまで起きていて、この値上げが浸透するのも時間の問題であろう。

アルミ建材の原料であるアルミ地金の国際価格は、トン当り60万円（2年前の2倍以上）に達しようとしているので、アルミサッシ、アルミカーテンウオールなどの製品価格も30%近い値上げが必至の状況である。

また、板ガラスも20%の値上げが決定している状況である。

間仕切部材、仕上材に影響のあるセメント、石綿、石膏ボード等窯業系建材は生産コストの主要部分を占める熱源が石油であるところから、石油の値上りは今後も影響するであろうし、吹付材、塗装材やその他のプラスチック建材は原料が石油化学製品であるから、玉つき値上げの影響をものに受けることは間違いない状況である。また、最近使われるようになったカーペットなどの繊維系建材も当然、化学繊維であるから、その影響をさけることはできない。

要するに建築物を構成するすべての建築材料は今後、10～20%の値上が予想されるわけである。

■秋以降の建築需要は低落か

一方、民間のビル工事が増加しているとはいえ、官公庁の公共工事は、インフレ抑制のために、くり延べが指導され、55年度予算においては成長率ゼロのものも少なくない。

高金利、高コスト時代になると設備投資（民間の建築需要も設備投資である）が減少することは明らかで、現在までに契約しているものを除いて、今後の建築着工は相当減少するものと思われる。具体的にいつ頃から減少するかは予測が困難であるが、多分秋頃までには、高金利、高コストの影響が出ることは間違いないものと思われる。

いずれにしても、エネルギーコストの上昇、高金利、コスト高という3重苦は、新しい経済体制の再編成がなくては乗り切れないであろう。建築需要構造も例外ではあり得ないものと思われる。

業界動向

項目	最近の動き	今後の動き	寸評	
建築着工	建設省が最近発表している建設工事受注統計（1月報）からみると、受注総額が前年比25%余増加となっており、なかでも民間発注が40%増と大幅な伸びを示している。官公庁工事が下降線をたどっているが、公共事業が一応景気下支えの役を果たして、民間主導による景気拡大へのバトンタッチを示すものなのか。	内外諸条件の悪化にもかかわらず、このところ受注傾向の面からの景気先行きは、とりあえず明るいものとみてよいが、秋以降が問題となつてこよう。		
関連業界	カーテンウォール	メタルカーテンウォールも中低層建築へと低層化が進み既存ビルの破片落下を防止するためのビル全体を覆ってしまういわば外装材としての用途に伸び、コンクリートカーテンウォールは、荷重の問題から高強度コンクリートの開発、取り付け技術の改良で対応している。	超高・高層ビルから中低層建築へとビルの低層化が進みつつあるが、民間受注のやや持ち直しが明るい材料ともみられている。	
	サッシ	日本サッシ協会の推定によれば、54年度の出荷量は52万6,000トンになると見ている。昨年11月までの5ヵ月間連続2ケタの伸びを記録してきている。	住宅サッシのアルミ化もほぼ限界に達し、今後の値上げがどう影響するかが注目されよう。	
	板ガラス	一般住宅への需要は低下し、ビル・マンション等への需要が伸びている。付加価値の高い、高級志向、省エネ、安全化への取り組み姿勢がみられる。	55年は、民間設備投資にやや期待する向きもあるが、依然、自動車の生産台数に左右される伸びに期待するものとみられる。	
	ALC	中低層建築着工の回復の中で、54年度は約10%の伸びと順調である。製造設備の増強で安定供給が可能となってきた。	建築構法のプレハブ化と構造の軽量化で今後も好調な伸びが期待できそう。だが材質的に、凍結による破壊、耐震性の問題も看過できず、今後の課題となろう。	
主要シリコン樹脂	シリコーン	昨年は37%増の4,000トンと好調な伸び。施工に便利な1成分形が建材店ルートで好調である。	耐紫外線特性を主とした接着耐性の評価が高く、大型物件はほとんどシリコーンが使われることで、好調は当分続きそう。	
	変成シリコーン	前年比160.7%増の250トンと伸びは高いが、新しいということでシェアは1.4%にすぎない。1社独走の感もある。	従来品にない特徴を生かした新しい材料でもあり、大型物件での実績をはずみに今後、需要増は必至。	
	ポリサルファイド	前年比17.5%増の6,650トンと全建築用シーリング材中に占めるシェアも23.3%と中心的地位を占めるに至った。	古い歴史と実績から根強い需要は変わらないものとみる。	
	ポリウレタン	驚異的とも言える前年比50%近い伸びの5,260トンを示し、油性に替る高性能品ということで伸びたか。	ルート販売で1成分形も増加しよう。2成分形の主要用途のPC板目地に順調な伸びが期待できよう。	
	アクリル	54年は5.3%増の3,950トンと順調を持続している。	近年、中層建築物に数量は少ないがポリウレタンが使われるケースがふえてきており、話題性がある。	
	油性	年々販売量が減少し、トップの座をポリサルファイドに譲った形になっている。	アスファルト防水の立ち上り部に使用されているという話もあるが、今後需要回復は期待しがたいようである。	

本部の動き

- 1月21日 新年総会が西熱海ホテルにおいて開催された。定例理事会、合同分科会に続いて工業会初の試みとして賛助会員との懇談会を行なった。夕刻より新年宴会に移り、会場は歓談に花が咲いた。翌日は親睦ゴルフコンペが催された。
- 1月23日 郵政省大臣官房建築部設計課標準設計室の要請により、シーリング材の説明を行なった。特に標準設計室は郵政省標準仕様書の改定作業中なので、最新のシーリング材に関する情報、知識を得たいとの依頼で、技術委員・山内氏（日本添加剤工業）及び浅見氏（エービーシー商会）が説明にあたった。シーリングハンドブックならびにJASS-8改定案両資料で説明を行ない、質疑応答形式の討論会にあたった。
- 2月19日 経営者懇談会を鉄道会館ルビーホールにて開催。冒頭、工業会活動に対する理解とコンセンサスをめたいとの会長あいさつがあり、現状説明、各委員長の活動報告に引続き懇談に移った。順次出席者の意見を拝聴し工業会活動の方針に賛同を得て散会した。
- 3月1日 1級シーリング管理士再講習（大阪）
場所：新大阪チサンホテル

受講者：27名

講師：江坂調査委員長（信越化学工業）
笹谷技術委員（サンスター化学工業）

- 3月15日 1級シーリング管理士再講習（東京）
場所：主婦の友ビル
受講者：32名
講師：江坂調査委員長（信越化学工業）
西沢技術副委員長（横浜ゴム）
- 第17回総会は5月22日（木）東郷記念館にて開催の予定

支部の動き

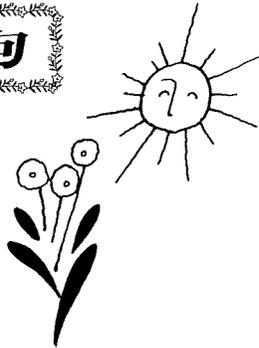
- 2級シーリング管理士再講習を各地で行なった。
- 12月9日 福岡支部
場所：福岡県青少年文化センター
受講者：27名
- 1月27日 広島支部
場所：紅葉会館
受講者：24名
- 3月2日 大阪支部
場所：新大阪チサンホテル
受講者：40名
- 3月15日 東京支部
場所：主婦の友ビル
受講者：23名

シーリングニュース 表紙揮毫の 山本照夫氏表彰さる！

ささる1月21日の新年総会の席上において、本シーリングニュースの表紙を毎号すばらしい書画で飾っていただいているテイパ化工株式会社会長・山本照夫氏に対し、当工業会はより広報効果を高めるものであると感謝の意をこめて表彰した。



短歌・俳句



「春の訪れ」

山本 千青

その底に 萌ゆる芽潜む 春の雪
朝まだき 山陰 暗く 梅白く
雪よけの 薦はまだ置く 春の霜
春浅く 雛に供える 艾餅
白酒に 酔う子もありて 雛祭

「唐人お吉の墓」

加藤 正守

陽炎へる唐人お吉墓二つ
コップ酒献ずお吉塚つづじ燃ゆ
春陰の哀話をつづるお吉絵図

伊豆下田の宝福寺には唐人お吉の墓が二つある。一つは本人を埋葬した墓であるが、一つは水谷八重子が追善のために建立したものである。愛人鶴松と別れ、因果を含められてハリス公使に仕えた開国の悲劇のヒロイン「唐人お吉」は、八重子の当り狂言であったからであろう。お吉は、新内をよくし、色白な瓜ざね顔の美人であったが、玉泉寺でのハリスとの仲は三夜であったという。後に鶴松と一時同棲するが、再び下田に戻り、小料理屋を開く。酒癖がこうじて乱酔の日々を送り、最後はお吉が淵に身を投げて五十才の生涯を終る。玉泉寺にはお吉塚があり、また巷間伝えられるお吉絵図が展示されている。

「ヘルン邸のお婆さん」

井手 筍子

先日、新聞にヘルン邸の名物お婆さんが亡くなったという記事を見た。何年前か、島根を旅行した時、松江に立寄り、小泉八雲が松江中学の教師をしていた頃新居を構えていたといわれるヘルン邸を見物した。その時、ヘルン邸そのものよりも、案内してくれた品の良いお婆さんの方が強く印象に残った。

こじんまりした、閑素なヘルン邸と良家の出と思われるお婆さんとの取合わせは、何ともいえぬさわやかさを感じさせてくれたものだ。

夏帯をかたく 案内の 老婆かな
甲高き 案内の声す ざるすべり
片蔭の下に 苔むす ヘルン邸
打水に 飛石光る ヘルン邸
ヘルン邸 調度も床し 夏座敷

技術と技能

清水建設(株) 研究所 次長・工博
丸一俊雄

シーリング工事に携わるものにとって、技術と技能がまま、問題されることがある。

技術と技能の区別は明確にできるのだろうか。

よくあの人は技術について詳しいが、技能はどうもということが言われる。

「広辞苑」によれば「技術」とは物事をたくみに行うわざや技芸と定義され、また科学を実施に 응용して自然の事物を改変、加工し、人間生活に利用するわざとされている。一方、「技能」とは技芸を行ううでまえと定義されている。

どうも技術には理屈がありそうであり、技能には属人的なその人の持ち前に依存する要素がありそうである。すなわち、技術は教育を通じて他人に理解される形で伝えて行くことができるが、技能はその伝え方が教育でなく、訓練を通じて自分自身が会得して行かねばならない。

職人的という場合にはこの技能を強く意識して用いられる。

シーリング工事における「施工」という行為には多くのブラックボックスがあり、この職人的要素に依存している場合が多く、常に技能が問題となる。技能を科学的に分析して行くことによって技術として捉えることができ、個人差によるバラツキが少なくなる。

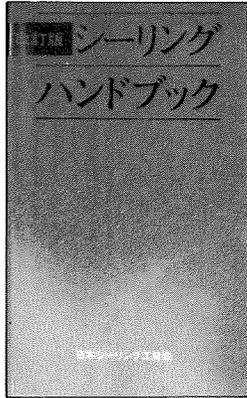
目地幅に対するシーリング材の適用や選択は現在のところ技術的に確立しているが、目地を構成する被着材に水密的な接着作業を行うとなると、実際には個人差が生ずる。ある人の行った仕事では時期を経過してもほとんどシーリング材の剥離が生じないのに、別の人が行ったものはいくつかの部分で剥離が生ずるといことがある。この原因がよく解明されないうちは技能に問題があるとされる。

よりよいシーリング工事を行うには全工程を通じて作業を技術的に解明し、できるだけ共通の理解が得られる状態で作業が行われることが必要である。この上に立って技能を問題にすることが大切であり、要は技術と技能の共に備えていることが必要であるということになる。

シーリング ハンドブック (改訂版)

シーリングハンドブック改訂版の4版が好評発刊されています。関連資料改訂に伴い、新JIS A 5758、改訂JASS-8(案)を掲載してますます充実。なお、お申込みの方は日本シーリング工業会までご連絡下さい。

頒布価格 600円



建築用シーリング材1級シーリング 管理士用テキスト

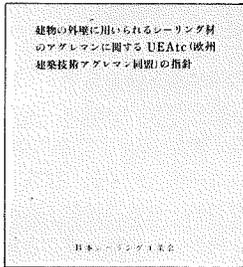
装幀も新たになって、わかりやすく再編集されています。

頒布価格 4,500円



刊行物
のご案内
&
告知板

資料頒布



建物の外壁に用いられる シーリング材の アグレマンに関する UEAtc

(欧州建築技術アグレマン同盟) の指針

ますます多用化されているシーリング材も、広く世界にその指針を求め、技術の研鑽を重ねてこそ未来があるという観点より、今回ヨーロッパアグレマンを翻訳、頒布することになりました。

JIS A 5758

「建築用シーリング材」 引張試験用被着体メーカー のご紹介

日本シーリング工業会では、標記被着体の良心的かつ安価なものをご紹介いたしたところ、下記(株)日本サンプルセンターをご紹介いたしております。製品のご照会、ご注文につきましては、同社に直接ご連絡され、工業会の会員である旨お伝え下されれば、特別価格にてご提供できることになっております。

(株)日本サンプルセンター

〒102 東京都千代田区飯田橋4-7-11

☎03-264-3513 カクタス飯田橋ビル

日本シーリング工業会の概要

性格と組織

本会はわが国における建築用、土木用シーリング工事の健全な発展と振興を計ることを目的として、昭和38年2月に設立されました。会員はわが国のシーリング材メーカーが加盟し、賛助会員は原材料メーカー及び取扱業者が加入しており、全国に7支部を有する全国的組織であります。

事業

- シーリング管理士の養成
- 日本シーリング工事業団体連合会と連繫、材料および工事に対する信頼の確保
- 技術資料の収集と情報の交換
- JIS、JASSへの協力
- 市場調査、需要開発に関する調査研究

発行図書

- 機関誌「シーリング」(年1回)
- シーリングニュース(年3回)
- 建築用シーリング材とその正しい使い方
- シーリングハンドブック
- 1級シーリング管理士用テキスト

日本シーリング工業会会員

オート化ラジエータ

- | | |
|---------------|---------------|
| アサヒボンド工業(株) | (株)東京ボース工業社 |
| (株)エービーシー商会 | トーレ・シリコーン(株) |
| カネボウエヌエスシー(株) | (株)日興社 |
| 鐘紡合成化学(株) | 日東化成工業(株) |
| 関西パテ化工(株) | 日東ポリマー工業(株) |
| 栗山ゴム(株) | 日本合成ゴム(株) |
| コニシ(株) | 日本シーカ(株) |
| サンスター化学工業(株) | 日本添加剤工業(株) |
| 三洋工業(株) | 日本合成化学工業(株) |
| 鐘産工業(株) | (株)日本化学研究所 |
| 昭和石油アスファルト(株) | 日本特殊塗料(株) |
| シャープ化学工業(株) | 日本ペルノックス(株) |
| 信越化学工業(株) | 日本ポリウレタン工業(株) |
| 新東洋合成(株) | (株)ノーベル樹脂化学 |
| 住友スリーエム(株) | (株)ハイケミカル |
| 製鉄化学工業(株) | (株)服部商店 |
| 世界長(株) | 早川ゴム(株) |
| セメダイン(株) | 保土谷建材工業(株) |
| ニッケミカル(株) | ボスチックジャパン(株) |
| 大和高分子工業(株) | 三井日曹ウレタン(株) |
| 武田薬品工業(株) | 三星産業(株) |
| テイパ化工(株) | 明星チャーチル(株) |
| 東亜応用化工(株) | 山内ゴム工業(株) |
| 東芝シリコーン(株) | 横浜ゴム(株) |
| | ラサ合成樹脂(株) |

日本シーリング工業会の組織

- | | | |
|---------------|-------------|-------|
| 委員会 | 分科会 | 支部 |
| 総務委員会 | シリコーン分科会 | 北海道支部 |
| 技術委員会 | 変成シリコーン分科会 | 仙台支部 |
| 広報委員会 | ポリサルファイド分科会 | 東京支部 |
| 調査委員会 | ポリウレタン分科会 | 名古屋支部 |
| シーリング管理士検定委員会 | アクリル・SBR分科会 | 大阪支部 |
| | ブチル分科会 | 広島支部 |
| | 油性分科会 | 福岡支部 |

表紙の言葉

梅花は百花を魁けて開花し、寒中にあっても人に新春の気を誘わす。梅花は万人齊しく好感を持つ。中国では是れを国花として、日本の桜花の様に重宝のものとしている。梅花の絵は殆どが老樹を現している。そうして古語の中に香骨とか香皴と云って、老いて尚頑強な性格の意味を持たせている。これも他木に例のない程に老朽した古木に、澁刺とした若枝が発生して、樹齡の老化を見せない。特性を賞るためであらう。老若の区別なく即ち香魂を示す。茲に本誌の表紙は 若枝に三鳥を配して一鳥は世相をよく視る。次鳥はよく考へ三鳥はよく告げて大勢を洞察する。瑞氣満好の早春を各位に贈る表現としました。

(山本照夫)

日本シーリング工業会

東京都千代田区外神田 2-2-17 共同ビル

TEL 03(255) 2 8 4 1 ~ 2

企画制作・日本シーリング工業会広報委員会

編集協力 (株)工文社 東京都千代田区神田佐久間町3-21

(谷田部ビル) ☎ 03-866-3504
